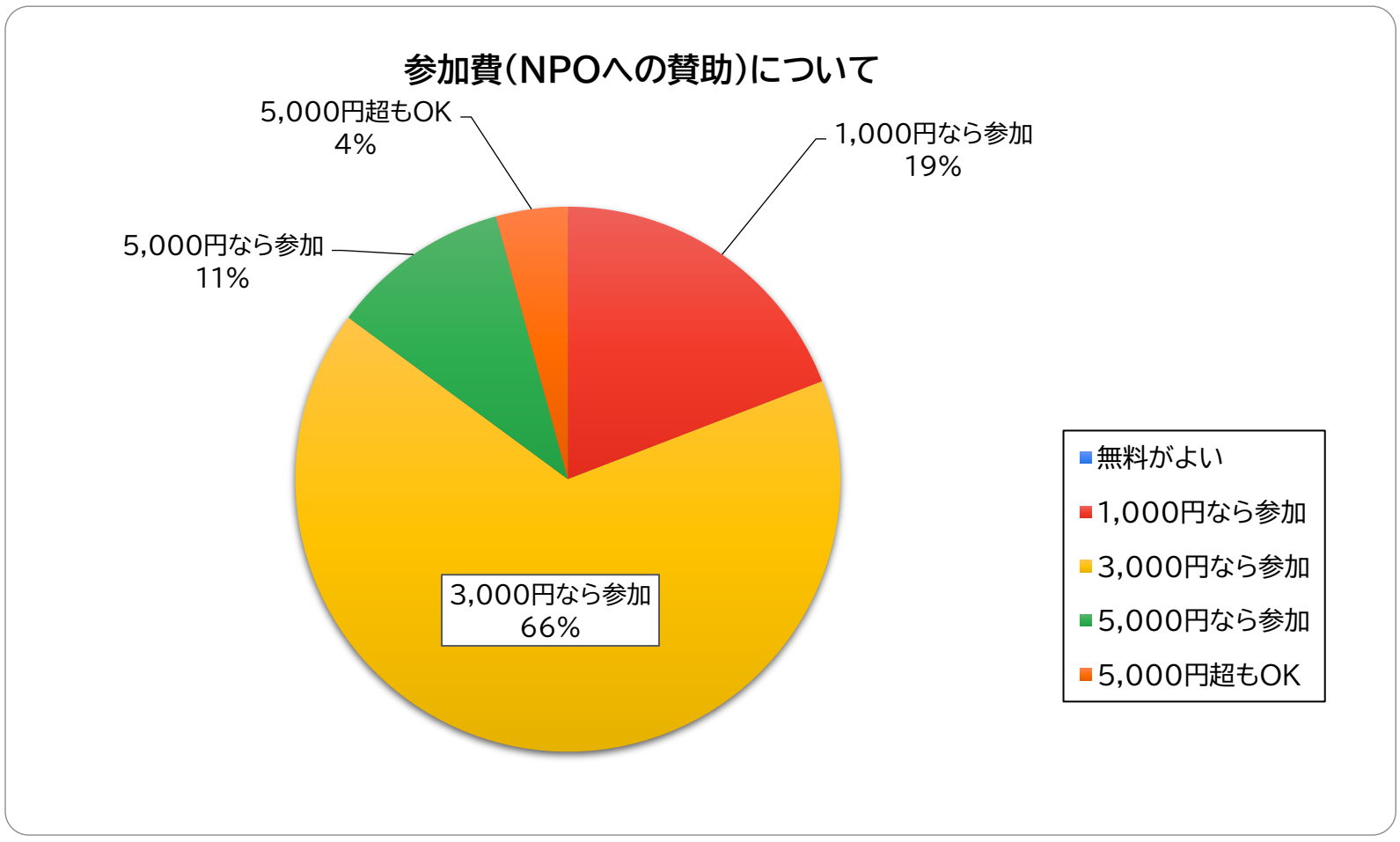
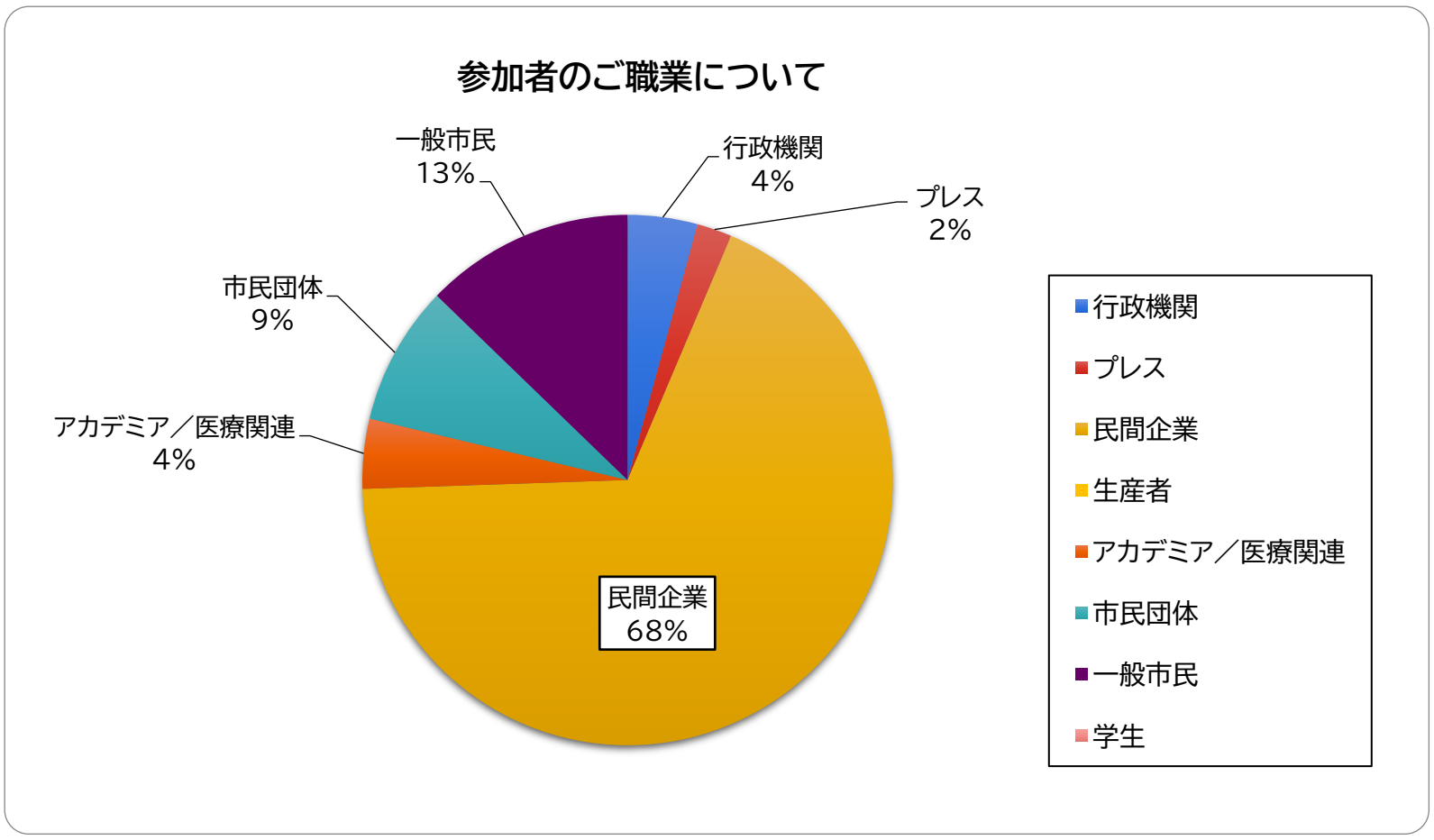
食のリスクコミュニケーション・フォーラム2022（4回シリーズ）
『消費者市民に対して説得ではなく理解を促すリスコミとは』

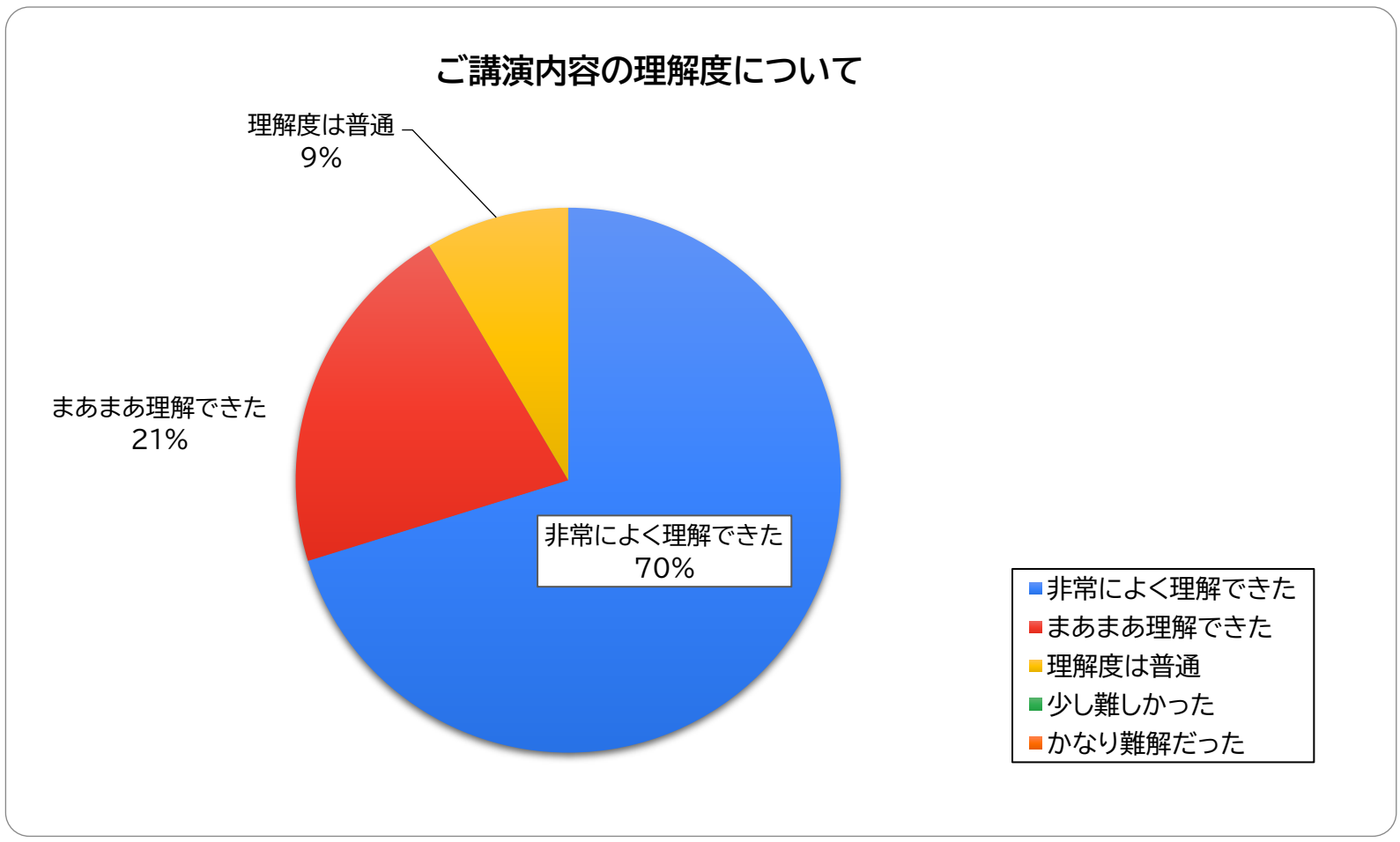
第2回テーマ:『輸入食品のリスコミのあり方』
【開催日】2022年6月26日（日） 13:00～17:30
【開催場所】オンライン開催（Zoom）

アンケート回収数58枚（参加者：103名、演者4名を除いた回収率：31%）



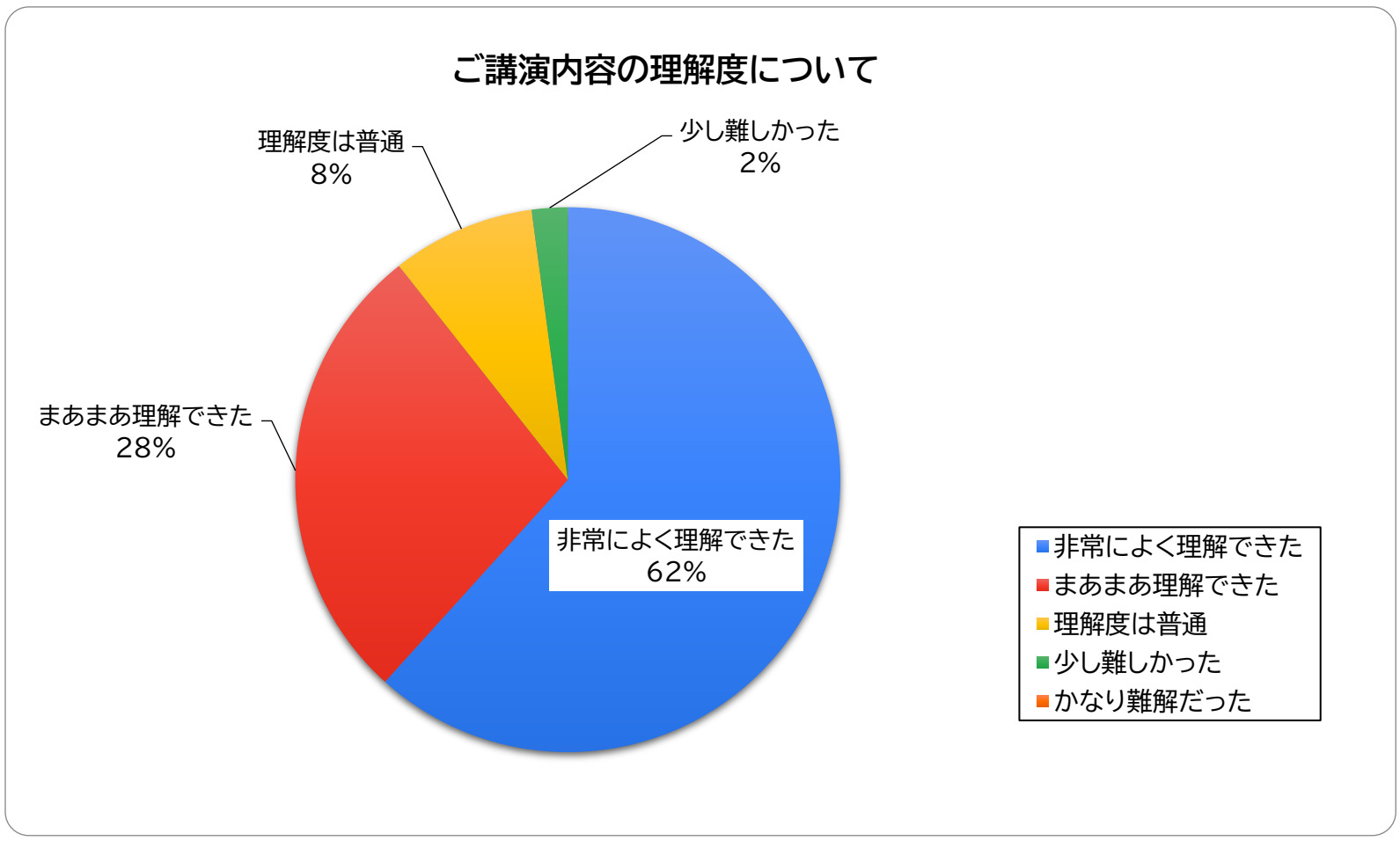


① 吉田 翔(CBCテレビ報道部 記者)『熊本県産アサリ産地偽装の裏側』



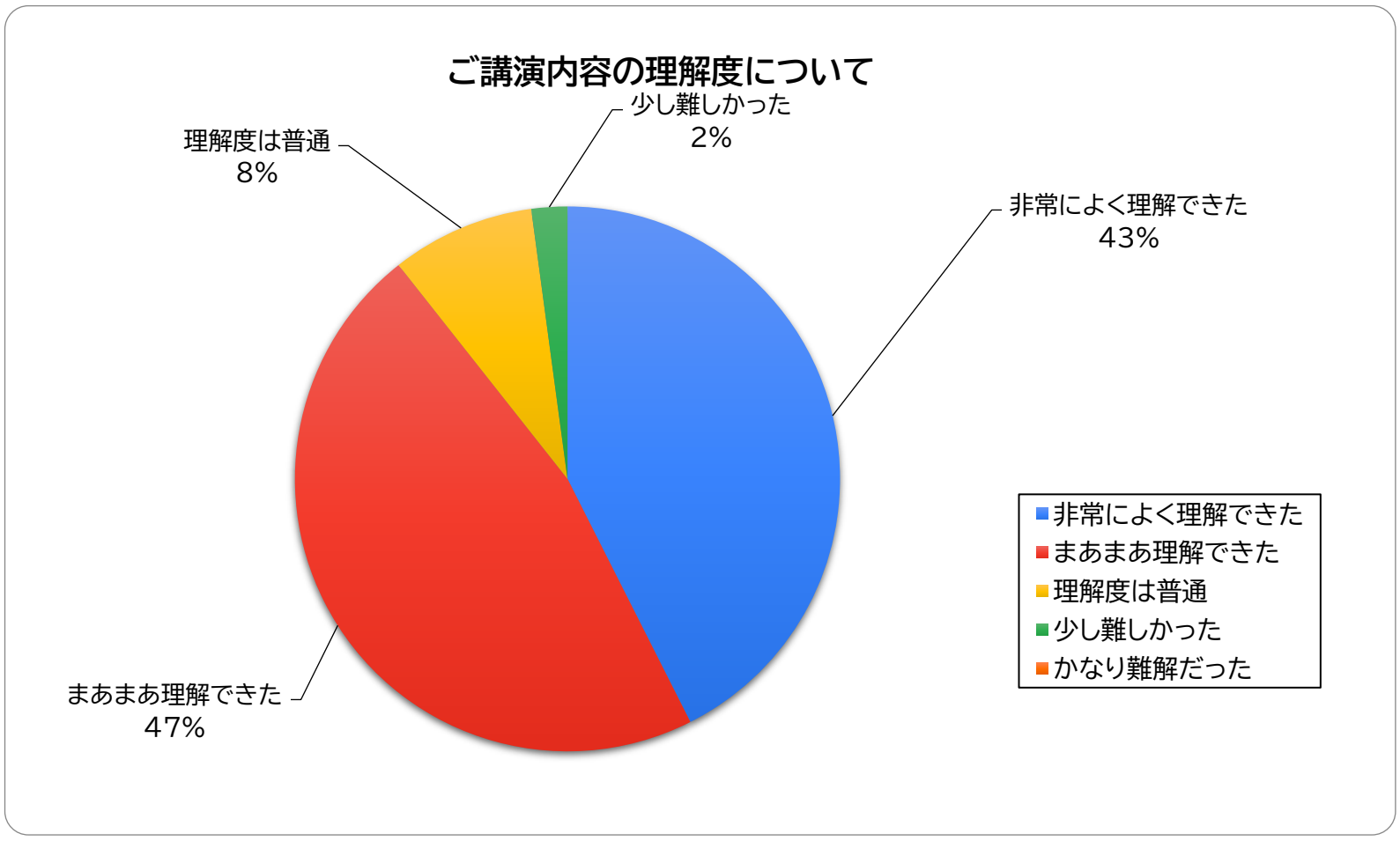
素晴らしい取材であったと思います。
取材をするときのご苦労なども次回お話しください。
報道の力を実感しました
報道の裏側を知ることができてとても興味深い内容でした。
貴重なご報告、ありがとうございました。熊本県においては、独自ルール(稚貝も熊本県産でなければ熊本県産表示ができない)に基づく産地表示と混乱するという理由から、改正された食品表示法に基づく「熊本県産」表示ができない問題があるようです。また、「有明産」表示もできないというような情報もあります。そのあたりの情報も、今後聞かせていただけると助かります。
粘り強く、また最初の報道で行政の動きや反響がなかったにも関わらず、取材を続けられ今年の大きな動きにつながったことに感銘を受けました。精神論になってしまいますが、やはり想いをもって行動することの大切さを改めて感じました。
起きていることの報道、問題提起だけでなく、偽装の当事者の方に寄り添った報道をされていたことに好印象を持ちました。できればこの先この問題がどうなったかを知りたいです。中国産のブランド化は難しいかもしれないですが、結局の所「生産者」の顔にほんの一次産業で起きていることを正しく知る消費者が増えないと何も変わらないとかんじました。とても興味深いお話ありがとうございました。報道の方皆さん吉田さんのように信念を持ったかたばかりだとよいと思いました。
ありがとうございます。取材を通して感じられた生の声を聴けたのが、非常に参考になりました。
産地名を正直に明記したのに、大量の在庫を抱えてしまう。正直に活動しているものが損をするようなことがおこらないように、消費者にも正しく理解する努力が必要に感じました。安直なTV番組や週刊誌の情報を鵜呑みにせず、事実かどうか疑う姿勢が必要ですね。
2019年の報道時に全く話題にならなかったことが不思議でした。
地域に根差す報道機関としてのプライドを感じてとても好感が持てました。どの産業においても自浄能力を持つこと、消費者に真摯に向き合うこと、将来を切り開く意欲を持つことが、その産業をよりよい方向に育てられるのだと改めて思いました。ありがとうございました。
干潮時にアサリがまかれて、また回収されて出荷される様子を映像で見て驚きました。また、産地偽装を行っていた吉川社長のその後の取組みについて、実名顔出してインタビューが実現したことは、それまでの取組みがあってこそだと思いました。こうした報道がされることで、消費者は事実を知ることができるので、こうした活動は継続していただけることを期待します。
TVメディアの仕事がよくわかった
テレビ報道の影響力を感じました。報道されなければまだ偽装は続いているのかと苦笑いたします。
参考になりました。
ローカルの愛知のアサリを発端として産地偽造と言う大きなテーマに立ち向かわれたこと、経緯を表します。ありがとうございました。
録画が見れて良かった
産地偽装を撲滅する為には、マスコミの関与が大きいことが理解できました。日本国内にはまだまだ、数多くの偽装リスクが存在します。消費者に対し、上記のリスクを認知する取組みを期待します。
なぜCBCが？とずっと思っていたので、背景部分からの解説ありがたかったです。実際の特集映像も見せていただきながらで分かりやすかったです。
熱心な報道姿勢が素晴らしいです。素直な疑問から、事実の発見だけでなく、当事者への取材もあり、偽装の真因の追求や生産者への寄り添いがありました。受け手に共感をもたらすのが良いマスコミだと思いました(悪いのは分断を煽ります)。
長年かけての取材に感動しました。愛知の出身なのでアサリのことも考えていきます。
モラルの低い業者、それを許す行政、安い価格で国産を求める消費者、という構図の説明が非常にわかりやすかった。
ジャーナリズムの真髄である「社会の“巨悪”に立ち向かう覚悟」が行政や社会を動かした大変良い事例と感じました。
マスメディアの報道がそのまま世間に広がらず、放置されるのは残念。
映像は想像以上にインパクトがありました。TVの番組の一部を視聴しただけでも、今回、多忙な中、後からでしたが視聴して非常に良かったと思います。出来るだけ多くの人に見てもらって、日本の食の現状を深く・広く考える契機にしてほしいと願います。
諦めずに取材を進められた報道者の姿勢に魅せられました。偽装表示の実態と事業者の裏事情の問題提起への道筋を示していただいたことになると感じました。これは同様の事例を思わせるだけでなく消費者の購入姿勢にも繋がることを思わせられました。
熊本産あさりの漁獲量が減っている事から生産者の生業が成り立たなくなっている事。行政・漁協の役割とは何だろう。産地表示についても漁協の役割とは一体何なのか・・・(農業、JAであっても同じ事)改めて考えた。
従来からの実態や関係者(漁業者・流通・消費者・役所)の黙認の風潮に流されることなく素直にあさり産地問題に取り組んだ事を評価します。アサリ産地偽装は世の中の国産志向中国産嫌悪という背景が生んだ残念な実態です店頭のアサリの殆どが中国産表示になりあまり売れていないようです。消費者は高くても国産アサリを買い求めるのが実情です。しかしアサリの総需要は減少すると考えます。熊本の海でリフレッシュされ鮮度が良く価格の安い中国生まれのアサリを食するのは消費者にとって本当は良いことです。偽装を許さない社会正義報道に加えて、偽装を起こす社会背景に踏み込み国産志向、中国産嫌悪の風潮を正し豊かな食生活を享受できる社会を目指す報道(リスクコミュニケーション)をしてこそ本当の問題解決です。
非常に見ごたえのある報道でした。最近、テレビ報道には独自の取材性に乏しいものが多く、魅力を感じないので、これからも頑張ってください。
蓄養というプロセスを初めて知りました。報道しだいでは、蓄養そのものが誤解をされる危うさも感じました。
似たような事が他でも起きていると思われます。これにとどまらず調査報道をお願い致します。
ニュース映像もあり分かりやすかったです。リスコミをしていると、消費者び食の安全の理解について、メディアは足を引っ張る側というイメージでした。後の中村先生の話にもありましたが、行政の背中を押すメディアの力を感じました。大変な取材だったと思います。リスコミの場で、こういった行政・食品事業者・食の専門家以外の方の話が聞けるのは貴重だと思いました。ありがとうございました。
地道な取材で現地実態とかつて偽装の当事者だった人物の偽装を防ぐ取組みを報道したことが反響を呼び、行政が動かざるを得なくなったことが良く分かった。
偽装を図っている方々も本来の相方では無いと感じながら、生活面からやむなく行っている背景があると感じました。もう一つこの社会構造から見直すことも重要でな無いか？なぜ地産にこれ程価値追求を図るのか？消費者の考え方も変えて行かなければならないのでは？

② 中村 啓一(元農水省食品表示Gメン)『輸入食品の偽装防止と行政の監視～農水省が異例の警鐘～』



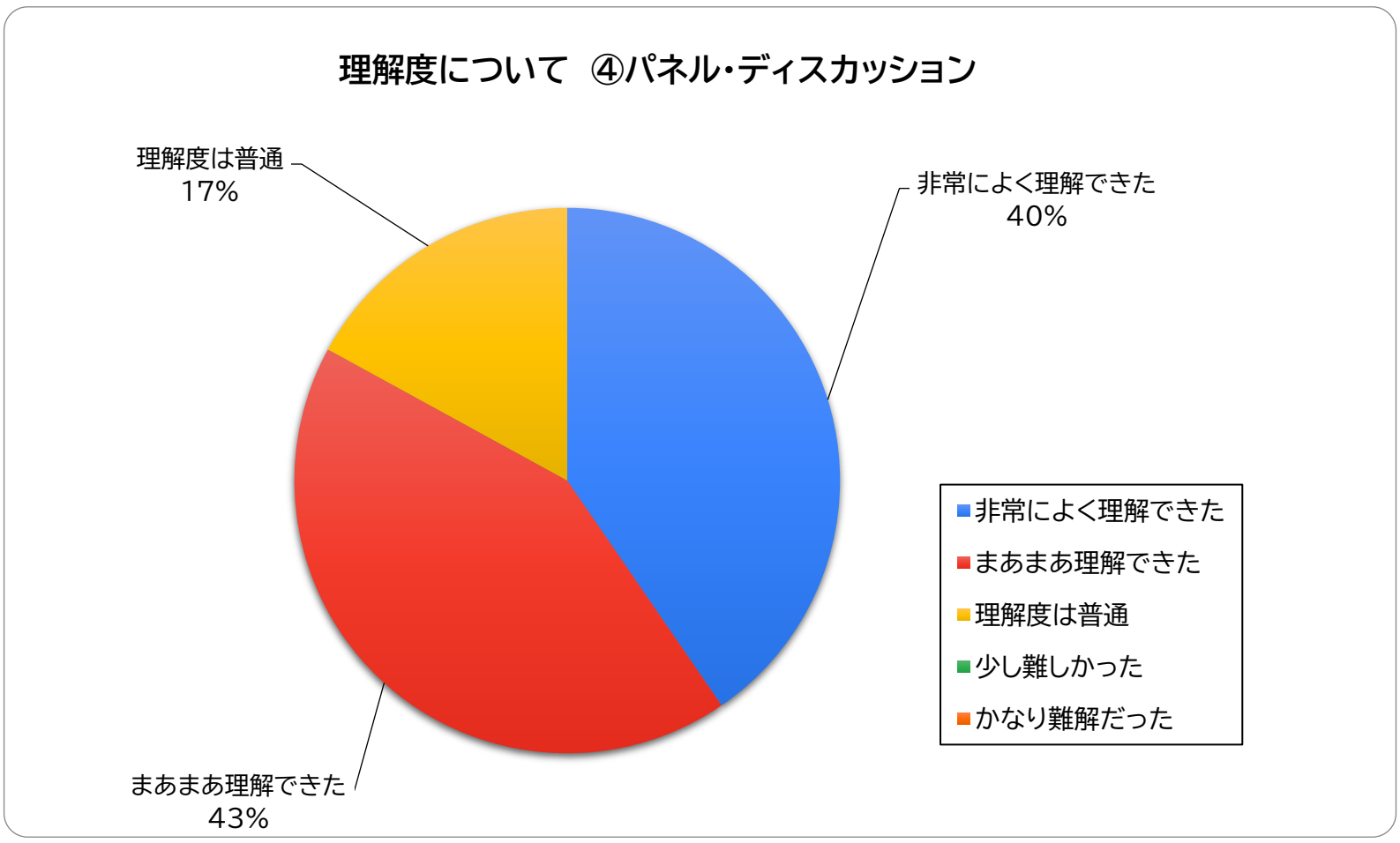
わかりやすい説明ありがとうございます。
最初のNHKの報道にも関わらず、農林水産省や熊本県が動かなかったことにつき、なぜなのか振り返る必要があると思います。
報道の力を実感しました
行政の立場から見た今回の偽装問題の背景がよく分かりました。
貴重なご報告、ありがとうございました。
私用でログインが遅れ視聴できませんでした
今回の農水省の動きが異例なことであること、地方行政のことなど、裏側の事業を伺うことができ大変参考になりました。何かを変えるのはそう単純ではなく、一筋縄ではいかない難しさがあることが分かりました。
政治銘柄･･･表示のルール複雑化の闇を感じます。複雑化して何をどうしたいんだ･･･と感じます。終わりの方にあった表示のルール改正について知っているのは11%との話もそりゃそうだ、、、自分も仕事で表示に関わることがなければ、知らないことだらけだったな、、、と改めて思います。とてもわかりやすいお話ありがとうございました。
過去の農水時代の経験談などが勉強になりました。事故事件報道が出ると、報道や国民の視点は、発生させた当事者の次に、すぐ行政での対応に目が向けられるものなんですね。自分たち自身の胸に聴いてみる姿勢が重要だと改めて気づきました。
アサリは稚貝で輸入され、国内で畜養されていると思っていました。スーパーで熊本県産のアサリはよく見かけるのですが、北海道や愛知県産のものはあまりありませんでした。まさか国内でも熊本県産がこんなに少ないとは！
熊本アサリの問題は、00年代にすでに農水省でも把握していたようなので、なぜ今まで農水省が対策を打たなかったのか、そして15年経って急に対応したのかが疑問です(大々的に報道されたから、と言われればそれまでですが)。 表示制度の難解さがわかりました。パネルディスカッションでも触れていましたが、一人の消費者の立場としては、現行の表示制度は「消費者が求める表示」ではないと感じました。
監視の役割、記録あるいはデータをどの立場でどのように読み解くのか、正しい視点はおのずと見えてくるのだということが分かった気がしました。 もっと聞きたいと感じました。ありがとうございました。
アサリに関する農水省の公表が異例であったことや、食品表示基準がこれまでと変わったわけではなく、改めていけないことを明確化したことを理解しました。今回の件は、自治体が熊本県産アサリを守ろうという強い意志があったから、国との連携がスムーズにできたということなのでしょうか。産地の本気度が大切なのだと感じました。
ポイントがよくまとめられていた
アサリの件は、行政はわかっていて長年放っておいたのではないかと想像しています。実際、福岡県在住の親戚が以前から気がついていて中国産アサリの話をしていました。行政は知らないはずはない、放っておく理由を聞きたいと思いました。
参考になりました。
農水省の食品表示Gメンとしてのご経験を元に、分かり安くお話いただき ありがとうございました。
現場に深く携わっていた経験は、非常に説得力がありました。中村先生の知見を共有、活用する場をつくっていきたいと考えています。部内における講演の機会をいただければ幸いです。
行政の努力に加えて、構造的には即時対応が難しい事情もわかりました。行政の限界もありますね。
国産や海外産を問わず食材としての価値を認めるべきだと思うが、昨今の中国は食品に限らず”何かおかしい”、と思う事件が相次ぐ中、中国産の信頼回復はどうしたら可能か、根深い問題だとあらためて感じました。
現在の食品Gメンに監視体制の問題点やアサリの厳格化は実は何も変わっていないこと、政治銘柄の話がが非常に興味深くわかりやすかったです。
たくさんの表示偽装を捕まえても、多くの場合は壊滅に至らないのが残念。やはり、地域や政治の協力、罰則の強化も不可欠なのだろう。
元農水省にお勤めとのことで、一般消費者が気が付きにくいことを、きちんとお話しくださいまして、非常に勉強になり、ありがとうございます。
原料原産地表示は、国内産業を守るための区別化だったのではと思うのですが、様々な実情に合わせて複雑になっていると感じます。ますます購入する最終消費者には理解できなくなってしまうとのではと気になりました。
農水省の第一報は非常に違和感を覚えた(DNA分析の結果だけでは誤解に繋がるのではないか？「この結果のみで原産国を特定することはできず･･･」について当時伝わらなかった)しかし産地全体の大きな問題を動かすうねりが作れた事は間違いない。 今後、ほか農水畜産物に対して警鐘となって欲しい。
過去から現在までのアサリだけでなく農産物、食品の表示偽装問題の法令をベースに解かり易い説明を聞くことが出来ました。 食品の表示が一般的な関心事でなかった50年近く前から手ごろな値段の三輪素麺は島原産と多くの人が知っていました、同様にかなり以前からアサリは中国から多数輸入通関されていました。 食育は食材や料理・栄養を知ることだけでなく農水産物が世界のどの地域、どの国でどれだけ生産漁獲されるのか、どこから輸入しているのかを社会・理科で教える事も食育だと思います、そうすることも国産志向・中国嫌悪を抑制すると思います。
産地偽装が行われる根本原因と消費者に求められるものについての広報、衆知をお願いしたい。
以前、近畿農政局の原料原産地表示のリスコミに参加した際に、違反の探知について質問したところあまり明確な回答がいただけなかったのですが、今回の内容でよく理解できました。ありがとうございました。
農水省食品表示Gメンが1,000人から600人と行政の実行部隊の人員が減っていることにショックを受けた。
行政の監視がどの程度効果に結びついているのか？は疑問です。また何より行政がこのように対応をしている事実を知らない。もっと消費者・業者に知らしめてゆく事も必要に感じました。我々自身も更に勉強が必要ですね

③ 天明 英之（公益社団法人日本輸入食品安全推進協会）『輸入食品の表示等のあり方』



わかりやすい説明ありがとうございます。
お話しは興味深く伺いましたが、表示より食品衛生の話題が多かったように感じました。
ご苦労も聞けましたのでありがとうございました。
「食品表示は食品業者と消費者をつなぐ信頼のきずな」はまさにその通りで、その意識をきちんと持ち続ければ表示偽装の抑止力に繋がると思いました。
輸入食品の安全性に関しては、正しい情報を多くの人に知っていただきたいですよね。
制度や法令の紹介に加えて、具体的な違反事例の紹介を頂けるとより分かり易いと感じました。
輸入の方がよっぽど安全ですよ、と言えない歯痒さを感じます。海外ではルールなどない、どこの原材料であろうと問題にならない、との話で日本人って愚かだな、贅沢だな、と感じてしまいました。「そんなこと言っている場合じゃない！！食べ物をどう確保するか」を真剣にかんげなくてはならない時代、というのを国民みんなで気付かないと、と思います。お話ありがとうございました。
お世話になっております。膨大な背景があるテーマをわかりやすく簡潔にまとめられていて、とても参考になりました。特に、輸入加工食品の自主管理に関する指針（ガイドライン）やそのチェックリストについては存在を忘れていたので、今回もう一度内容を見直したいと思います。
本来消費者の安全のための表示であるはずが、ずれてしまっているように感じます。産地を正しく表示すると『地球上』になってしまう、おかしな話ですね。
水際対策の状況は分かりましたが、そこからリスクコミュニケーションには展開されていないという状況があることは分かりました。
輸入食品はこれだけ厳しい基準をクリアして市場に出ているのに、消費者にそのことが伝わっていないのはなぜだろうと、途中から頭の中であれこれ考えつつお話しを拝聴しました。 輸入品というより「仮想敵としての外国」に対する排外主義が背景にあるのだろうとは思いますが、それだけではない「表示に対する根拠のない不信感」も一部の消費者の中にあるのではないかなどと、思いめぐらせているうちに、あっという間にお話しが終わってしまいました。貴重なお話しをありがとうございました。
輸入食品の監視体制や輸出国における衛生管理対策の推進により違反件数が確実に減ってきていることを初めて知りました。こうした情報が消費者に伝われば、国産が安全という神話も変わってくるのではないかと思いました。
参考になりました。
食品表示 、特に輸入食品の安全確保の体制について、理解を深めるこよができました。ありがとうございます。
学校でこの様な内容の教育を行ってほしいと感じました。red
大変申し訳ありません。時間の都合で聴講できておりません。
解説大変分かりやすかったですが、あらためて国の原産地表示の制度は難しいと感じました。今回解説されていませんでしたが、水産物の中でも養殖魚の場合は「長いところルール」ではないため、やはり複雑と感じましたし、消費者のモヤモヤ感はぬぐえないように思います。
輸入食品自体の安全が国産食品よりも問題がないことが分かりやすいです。ポピュリズムが原産地表示や食品安全/安心の在り方を捻じ曲げていますね。
最終的に輸入食材の安全を担保するのはメーカーであり、消費者から信頼されるメーカーであることが、輸入原料の産地拡大や信頼にもつながってゆくと感じました。
輸入食品の監視体制、表示ルールの情報がわかりやすかったです。
輸入品の安全性は疑うものではないが、安全とは無関係な法令違反の報道ばかりされるのが、外国産は危ないと思わせる原因だろう。
食品の表示は非常に複雑で、天明氏のお話を何度も拝聴していますが、覚えきれない面があります。そのような広くて複雑なことについて、いつも、きちんとアップデイトしてスライドにまとめて、お話してくださるのを、ありがたく存じます。
輸入食品の方がある意味国内品より安全性管理がされている訳ですが、天明様の「食品表示は食品事業者と消費者をつなぐ信頼のきずな」と理解されるリスクコミュニケーションを思うところです。
上記はスライド拝見して（必須との由）、別件があり視聴できませんでした
輸入食品についてのリスコミが少ないと感じている。一般消費者に伝わっていない事が多い。台湾輸出のイチゴの件も消費者の理解はどうだったのだろう。
日本輸入食品安全推進協会が輸入食品の安全を組織的に事業者の啓蒙している事を知りました、食品事故の発生防止に活動していることも初めて知りました。輸入商社の品質管理体制に不安を持っていたが協会の存在で安心しました。 輸入時に税関の輸入審査、厚生労働省の食品検査、農水省の動物検疫・植物検査がありますが各部署間が連携して最終的に輸入許可されていますが、原産地については原産地証明書に基づき確認していると認識しています。特恵関税・EPA対象国かどうかの判断基準に原産地が重要で、輸入後の食品表示を意識していないと思われます。
政治銘柄という言葉になるほどと思いつつ、結果的に合理性が失われて消費者の理解が得られなくなるように思いました
表示のルールは一般の消費者には理解が難しいと思われます。行政と消費者の間の橋渡しをお願いしたいと思います。
整理された内容で分かりやすかったです。以前「輸入食品衛生管理者」の養成の案内を見たことがあります。どういう資格なのか、輸入時の衛生管理対策等表示だけでない、輸入に関する全般的な話を知れてよかったです。ありがとうございました。
大変情報量が多かった。資料を読み返して消化不良を解消したい。
現時点我々の担当の大変さを一番に感じました。彼ら彼女らに感謝したいし、あらためて彼らの業務b内容の理解度を高めて参ります

④ パネル・ディスカッション（進行：SFSS山崎）『輸入食品のリスコミのあり方』



うまい進行ですね。
もう少し時間をとった方がよいのではといつも感じております。
神話といっても良いような思い込みをしている方に対してどう説明したら良いか？いつも悩まされます。論破は簡単ですがそれでは開いては理解してくれませんので。
産直がいいと考えている人に、どう話したらいいのかという話題は面白かったです。「顔が見える⇒信頼できる⇒安心」わからなくもないですが、安全性は別なんですがね。
売り切れ御免！を流通が容認すべきとの指摘はとても重要と感じました。
参加者の方の質問とそれに対する演者の方々や山﨑先生のコメントが、どれも興味深いものでした。
どうしても限られた時間の中で、うまく参加者の意見を拾い上げていただき、ありがとうございました。
表示制度がイビツだと感じました。食品偽装は表示制度の穴を突く行為なので、発覚後は法律の穴を埋める作業をするのでしょうが、それはまじめな事業者には関係ないような気がします。偽装表示は組織ぐるみでやる行為なので、対策は罰則強化（強化というか、発覚したら二度とフードビジネスに復帰できないレベルの厳罰）でよいと思いました。 また、「国産＝安全」「輸入＝何となく危ない」は、無知なマスコミが好むフレーズではありますが、食品メーカーや流通も意図的に使ってしまったフレーズだと思います（全ての事業者ではないにせよ）。科学的根拠のない強調表示は、そろそろ排除した方がよいと感じました（「国産＝安全・安心」という科学的でないフレーズを濫用してきたことが、今日、科学情報が伝わらなくなった一因では？と感じました）。
例えばあさりの場合、数年前に近隣のスーパーで形のゆがんだものや、殻のでこぼこが尋常ではないようなあさりが出回ったことがありました。それは数年間続いたのですが、買い物客は「これはきっと外国産だよ」と根拠のないことを口々に言っていました。 奇形=汚染を連想した人もいたようです。奇形はなぜ起こったのか、市場に出回ったのはなぜか、食品としての問題はないのか、生産者や販売者がこうしたささやかな商品の変化をとらえて、消費者に丁寧に伝えれば、「仮想敵」は必要なくなるはずです。 消費者とのリスクコミュニケーションを意識すること、品質に敏感であることがよい循環を生むのではないでしょうか。
中国というと何となく安全でないと思ってしまう消費者が多いことは、確かに週刊誌の報道や実際にあった事件などの影響と思いました。日本は、食料自給率が低いのに、国産がよいと思う人が多く、正しい情報を知ること、知らせることが重要と感じました。
いろいろと考える機会になりました。
お疲れ様でした!⊠アサリの問題は有明での生産量減少、特定の諸外国への偏見、国産神話、行政の思惑が背景にある表示の問題など、複雑な要因が絡み 、表面的にはとても難しい問題だと思います。
各講演の内容の理解や深堀、特に理解の共有には不可欠ですね。日本人には外国産食品などに対する不安があり、これがポピュリズムを通じて、行政や物流を歪めている現実が分かりました。業者さんも被害者なのですね。
海外との比較が後半の議論で出てきて、海外は何も表示していない、という事実に驚いたと同時に、食品の原原表示対応は政府のTPP対策、ということがよく理解できました。
パネラーのお立場の中でいろいろなお話を聞くことができ、非常に興味深かったです。 産地の本気度、見える化の大切さを痛感しました。
食品偽装の摘発、防止についてもっと議論を深めて欲しかった
演者の皆様が纏めとして述べられたこと正にと感じました。消費者は地産地消、国産そのようなことを言う前に考えなければならないことを知らしめたい限りです。
上記は仮（必須との由）、別件があり視聴できませんでした
身近なアサリ産地偽装表示問題から国内農産物の産地表示の事情、輸入食品安全の対応状況と普通では引き事の出来ない議論が聞けて大変良かったです
地産地消の質問と回答は、その通りだと思いますが、どこまで地産地消を信じる方が納得されるかはよく分かりません。また、輸入食品をバッシングする代わりに国産を応援するとのご意見は、ロシアのウクライナへの侵攻後、物価が上昇し、これからは自国である程度の食料を確保する体制がますます必要で、いつ中国などから輸入をストップされても供給できる国造りが必要なので、国産の野菜や畜産物がが普通に広く、安く買えるように農業をバックアップする体制が必要だと思います。
日本の消費者の行動が思いの外頑固で、なかなか妙案が出ないと感じるとともに、今回のような議論を続けることが大事だと思いました
質問の内容が一部よく理解できない（難しい言葉もあったように思える）部分があった。司会者の方でかみ砕いた形で質問を紹介して頂きたかった。
議論の中で「中国産と無理やり表示させることは方向性としてどうなのか」というのが印象に残りました。添加物の「～出ない表示」にもありましたが、表示することが優良誤認のような、消費者のためのようで消費者のためになってないということがあるのではと思いました。なんでもかんでも表示すればいいというものでもなく、リスコミにおいても安全性の本質的な部分を伝えられればと思います。
議題が理解しやすく、議論もよく理解できた。
それぞれの立場で、如何進めて行く事が出来るのか？難しさが伝わりました

⑤ 今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えください

良い内容でした。
講師のみなさまの準備に感謝いたします。
食品偽装がなくならないのは、特に中国産などの輸入食品に対するイメージが悪く、売り上げにつながらないことが一因だと思います。 そのため、企業の立場としても、輸入食品に対する正しい情報を発信し、少しでも消費者の理解につなげられればと思いました。
いつも貴重な情報提供いただき、感謝いたします。 今回も興味深い話を聞くことができました。
食の安全を脅かす最大のリスク要因は安定供給が断たれることと一色先生が指摘されていました。国内農水産業が衰退するリスクに関するコミュニケーションはどのような状況にあるかが気になりました。
日頃から、消費者のイメージとしての中国嫌いはなかなか根強いと感じていましたが、良くない情報（危険、安全でない、、、）は報道になりやすくヒトも関心がある一方よい情報は報道にもなりにくいし広まりにくい、というお話になるほどと思いました。
日本の農林水産業の危機的状況について考えさせられる会となりました。有意義な時間となりました、ありがとうございました。
とても有意義な場をご提供いただけたと思います。添加物のアーカイブも気になりました。
中国での食品に関する事件、粉ミルクにメラミン樹脂、餃子事件など日本で大きく話題になり、食の安全に疑惑をもつような報道が多く流れた影響で、食品で中国産の文字を見ると、どうしても安全性を疑ってしまいます。 検疫で厳しいチェックを受け、安全と確認されたものしか日本国内で流通していない（はず）と信じ、お財布に優しい輸入食品を受け入れていきたと思いました。
マスコミや流通が「消費者が求めているから～」と言った時、私が求めているものと一致したことは、ほぼ無い。彼らの言う「消費者」はマジョリティなのか、声がでかい少数派なのか？ 願わくば、表示の在り方を抜本から作り直してほしい。
自分自身もスーパーでアサリが中国産と表示されているのを見た時に、一瞬手が伸びにくく感じましたので、今日のフォーラムで実態がよくわかったのでよかったです。
今回のタイトルの「説得ではなく理解を促すリスコミ」はやはり非常に難しいと再認識しました。
パネルディスカッションの中で、自分の舌を信じるとの発言がありましたが、基本はそれで間違いないと思います。ただそれだと、元も子もないのですが、少なくても現状の原産地表示には大きな課題があることは改めて認識できました。
新たな原料原産地表示にいて、遡り表示で外国産と原産地表示するより、国内加工しているので国内製造と表示したいと末端ユーザーからお問合せがくることもあり、輸入品に対して抵抗がある消費者も一定数いるのではと実感している。昨今の経済事情により、原料の高騰に伴う産地や配合割合の偽装等が発生しやすい状況ではないかと危惧している。
様々な立場の組織・団体、個人が、より連携する事で、産地偽装リスクは低減されるのではないかと感じました。1企業で取り組むには多くの労力を要します。
産地はリスクに係るものではないため、結局は消費者の自由となるところは難しいなと感じました。ただ、うちの子（中学生3年）も、中学校の家庭科で先生から「輸入食品は危ないので気を付けるように」と指導受けたとのことで、やはり小中学校からの食育が大事と感じています（食品ってそもそも何なのか？ぜいたくばかりでは何も食べられなくなる。食料の安全保障は世界のみんなの課題。）
偽装の原因は、政治（ポピュリズム）、民度（消費者の理解度、興味）、コミュニケーション（エビデンスの受発信の文化、マスコミの対応）、生産者や物流の生存戦略（コンプライアンス）、行政の限界（人員減など）などが絡む複雑な事象と認識しました。個々にモニターし、予防・発見・改善が必要ですが、多くの事象が当てはまりますね。
食料自給率40％程度の食品輸入大国であるにもかかわらず、国産品信者が多数存在していることに違和感を感じます。しっかりとトレースが取れる原料であることが海外・国産を問わず今後ますます重要視されるポイントかなと感じました。
今回の偽装問題では利益を得ていた事業者が課徴金等の制裁を受けていないのも、「厳格化」がうやむやになっている理由の一つではないかと思います。
消費者は自分の興味のないものはなんとなくで判断するので、消費者教育もリスクコミュニケーションも通用しないのが問題。しかし、真実を深掘りもせずにそのなんとなくが定着して、思い込みにつながるとやっかいな相手になる。
報道記者からの視点というのは、専門家からの視点とは異なるものがあり理解を深めてくれるように感じました。
限られた時間なので仕方ない面もありますが、日本の法律に合わせる際の例として、放射線照射が挙げられましたが、何も知らない人は、放射線照射が危険と思う虞があるので、一言、「安全ではあるけれど、法律上は禁止」の旨を言い添えて頂きたかったです。ただし、今回の企画では無理とも思うので、別の機会にちょこっと説明を加えられると理想と存じます。
食品がほぼ店頭に欠品も少なく溢れている流通、安い国産商品などが当たり前と思わせられる市場状況によって本当の国内事情を消費者は気づくことができない要因でもあるのではと 感じました。
オンラインで良く視聴できなかった部分がありましたので、動画配信を再度視聴致しました。細かい点を良くお聴きすることができて有意義でした。有難うございました。
どうして日本の食の世界には偽装に走る方が多く、また、なくならないのでしょうか
産地問題はやはり消費者の中国産品嫌悪を解消するに尽きると思いました。永遠のテーマです。
熊本県産アサリの偽装は、TVの録画を見て驚きました。夜中にトラックが列をなしてアサリを運んでいる映像が非常に印象に残っています。いまだに産地偽装が、あんなに大体的に地域ぐるみで行われていたこことがショックです。熊本は、くまモンも有名で、食べ物もおいしいイメージがあっただけに、熊本県全体のイメージダウンとなり、偽装をしていた人達は、吉川さんのように心を入れ替えてほしいと思います。
産地偽装と食の安全リスクとのつながりが十分理解できなかったと思う。勉強したい。
フォーラムのタイトルは「輸入食品のリスコミのあり方」とありますが、アサリの産地偽装という惹きつけるトピックがはじめにあったことにより、全体がぼんやりとせず、興味深く聞かせていただきました。ありがとうございました。
興味があった議題だったので楽しめた。

⑥ 今後、食の安全・安心・リスクに係る分野で、どのようなテーマのフォーラムを希望されますか？

リスクコミュニケーションのあり方そのもの
異物混入対策
ウクライナ危機を契機に食品の安定供給に不安が拡がっています。”安定供給”の視点でどのようなリスクがあるかに焦点を当てたフォーラムは開催出来るでしょうか？
遺伝子組換え食品の表示とゲノム編集食品の表示について。ヴィーガン・ベジタリアン向け食品と低アレルゲン食品とハラル認証について。健康食品の監視・指導と消費者教育について。ECサイトを通じた食品販売の拡大を踏まえたリスクとその対策について。
最近、映画「おいしい給食」を見たので、食育の在り方（どの年齢で何を教えるか。家庭で教えること、学校で教えること。食育を教える人に必要な知識や資質、学校給食から何を学ぶか、授業から何を学ぶか）。
遺伝子組換え食品やゲノム編集食品が危険と信じて疑わない方に対してのコミュニケーション方法について。
フードファディズムによるリスクについて。
日本に暮らす外国人の方に自国と日本との食品の安心安全に関するリスコミや規則の違いを講演してもらいたい。
海外試験法（ISO、FDA/BAM）と公定法のハーモナイザーション（微生物検査）
民間企業における産地偽装対策について、事例、取組みの共有の場があることを期待しています。また、グローバルな取組みも知る機会があればより参考になります。
学校教育の実状を伺いたいです。食育の観点で「有機」「添加物」「遺伝子組換え」など、どう考えて、どう教えているのか？ また、食品表示や食品安全の消費者モニターや調査結果は毎年のようにとられている訳ですが、それが上手くリスコミとリンクしていないように感じます。結局、データの採りっぱなしになっているのが、リスコミが進んでいかない要因のように感じますので、行政でのリスコミの状況と今後の展望部分の話を伺いたいです。
今回からだと、マスコミ並びにポピュリズムが及ぼす食品安全への影響でしょうか。また、オーバースペックの問題は、大きな弱点、宿痾です。品質は日本の強みですが、労働人口減の下、過剰な品質は維持できないと思います。今後は食品ロス、コスト競争、自動化の面で弱みになります。これを生み出す真因を追及することにも大きな意義があるかと。
代替タンパク（培養、植物、昆虫等）のリスク管理について
遺伝子組み換え食品について（mRNAワクチンのデマを見ていても、遺伝子組み換えに関する啓蒙は必要と思います）
日本の国民性と食品擬装の根源的な課題など
毎年同じテーマとなり事務局は悩まれるかもしれないが、同じテーマでも取り巻く問題は日々変化している。過去に取り上げたテーマでも再び開催頂ければと思います。
食の安全と回収問題について。安全とはかかわりないことが原因で大規模な回収が起きており、食料自給率の低い我が国とっては大きな問題です。
自然毒
文部科学省の学校給食関連法令の担当官による解説

⑦ 輸入食品のリスコミや表示のあり方について、どうあるべきでしょうか？ご意見をお書きください

加工食品原料の「国内製造」は問題ありと思います。
食品安全の問題と食品選択の問題を混同しないことを繰り返し伝えていくこと。
最近テレビ番組で、国産の農産物などを生産する農家さんにスポットを当てた番組が増えている気がします。どんな苦労があって、どれだけ大切に育てているかが伝わってきますので、輸入食品についても海外の生産者さんの実情や輸入の仕組みなどを取り上げられれば、よいかもしれません。
皆さんが正しい情報に触れる機会をいかに増やしていくかが重要ですので、国やメディアも今以上に積極的に情報発信をしてほしい。
食の安全や品質において、輸入食品＜国産食品　であるという漠然とイメージ・偏見を持たないために、輸入・国産に限らず条件をクリアした食品につけられるマークのようなものがあるとよいのかしらと安易に考えたりしていましたが、消費者は自分の舌で判断、、というお話にも共感しました。自分も含めて消費者が自分の舌と頭で判断できるようになるために、食卓の向こうにあるものを知ろうという「食育」も大切な取り組みではないかと改めて思いました。
結局、危険に訴えるのが手っ取り早いので、「外国産嫌だ」と言っているん場合じゃない日本の食糧事情の理解を学校教育で重点的に行う、ことが必要と思います。先の短い方には「国産ぜったい安全神話」を信じたまま過ごしていただき、これから100年生きる人に現実を知ってもらうしかない。添加物のように親からの誤った教育がされない世の中にしていくべき。
パネルディスカッションにもあった地産地産や国産振興（信仰？）ですが、消費者意識としては食品の安全性の問題とは別に、国内生産者への応援や食品自給率の向上に対して意識があるように思います。そちらは推奨されこそすれ、全く批難されるものではないので、どちらかといえば、訴求表示も含めアピールの方向性はそちらにシフトしていくべきと考えます。また、国の制度としてJAS指定の拡大なども活用しながら、そういった取り組みを応援する仕組みが社会として確立すれば、産地偽装や輸入食品への不安も解消されていくのではないか今日の議論を聞いていて思いました。
輸入品は検査されて安全なものが流通しているということを、消費者にダイレクトに届くような記事を載せられないものでしょうか？ 『誤解だらけ！輸入品の事実』なんてタイトルで、検査しているところを取材したものを、手軽な週刊誌や新聞紙面に載せてはいかがでしょうか？
ツイッター社はCOVID-19ワクチンに関する誤った情報を繰り返し投稿するアカウントを永久に凍結できると聞きました。マスコミや雑誌もそのような対処ができれば、誤情報はだいぶ減ると思います。
原料原産地表示に関しては、中国製造と書きたくないために重量順第一位の原材料を変更するという話を聞いたことがあり、消費者への忖度ということではなく、安全性を正しく伝える行動をすべきと感じました。
ウナギの話がでていましたが、ウナギとアサリは違うと思います。消費者がどれだけ欲しいかも考えてリスコミをする必要があるように思います。
優良（不良）誤認につながりかねないような不必要な原材料表示などは見直して、必要十分な表示であるべきと思います。
国内の一次産業の保護や振興 、自給率アップなど表示は極めて国策を反映したものと思います。立場によって考え方は大きく変わって来ると思います。アレルギー物質など安全性に関する情報が正しく表示されていること以外は、現状の表示について正しく理解することを継続することが大切だと思います。
日本と海外の試験法の違いにより、現地サプライヤーとどう規格を握ればよいか苦労している、違反が出てしまい対応している輸入者がいると思います。いまこそ日本は世界と足並みを揃えるべきだと思います。個々の食品別の成分規格について、本当に必要なのか、適切であるか取り上げて検証してほしいです（大腸菌群の規格は必要なのか、特に冷凍鮮魚介類は疑問に感じます）。
輸入食品の安全性に関して、もっと行政はPRを行ってほしい
長くて、複雑な輸入食品のフードチェーンは、現状、不透明です。それぞれの役割を担っているプレイヤーが、今、何を感じ何をしようとしているか？を共有し課題解決を図ることが必要だと思います。輸入食品を製造するメーカー、輸入者、販売者の方々が参加し、コミュニケーションを行うことが必要だと感じました。
食はみんなに必要不可欠なこと。みんなが食に感謝できるような形が本来の姿ではないかと思います。今は便利な世の中になっており、「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとう」が薄くなっているように感じます。
アサリのような偽装問題は、生産者間・物流業者間の相互牽制（相乗り監査）が必要かもしれません。これによって、逸脱や問題を早期に発見、通告し、行政が対応する流れです。真面目な企業を救うには、スピードが大事です。また、原料原産地表示は海外並みでよい、つまり不要かと。運用を考えて、出来るだけシンプルにする方向が必要かと。
表示ルールはますます細かく面倒で手間がかかるものになっています。簡素化の道はないのか、本当にお客様のほしい情報なのか、。責任を回避する為だけの、だれも読めないTVのCFの投資リスク説明みたいなものは無くして欲しいと思います。（健康被害は別）
やっていることをわかりやすく伝えること（見える化）の大切さを痛感しました。
国内だけでは供給しきれないという現状を伝えることと、輸入品の安全性に対する理解を深めていくことを同時に進めないといけないと、考えています。
輸入食品の違反件数だけではなく、違反率といった客観的事実を周知することが第1と思います。私自身は、限られた授業時間の中で、何とか、学生に伝えたいと存じます。できれば、共著の家庭科教員向けの本等で、伝えて行きたいです。読者は少ないですが、自分の卒業した高校同窓会HPに連載中の「オトナの食育」にも、いつか書きたいと存じます。
あるべき答えが見つかりませんが、輸入食品のリスコミ、表示について当フォーラムの聴講者を増えることを願いたく思います。一人ひとりが理解し自覚してもらえることこそと思います。
消費者（買う側）の判断が重要かと、そのためには…
食品表示の内容ばかりが先行して（表立って）肝心の中身、意義が理解されていない。 不使用表示、原料原産地、遺伝子組換え・・・。食品表示はますます複雑怪奇となり、一般の理解より、さらにかけ離れていくのではないかと感じる。
かつては輸入品は舶来品として国産より高いが物が良いと評価されていたが、現代は国内品より高級で美味しいか、もしくは価格が安くお値打ち品の位置付けです。輸入品なくして日本の食は成り立たない事と消費者の中国品嫌悪を払拭するリスコミをすべきです
長いところルールのシイタケは改正されましたがエリンギなどは対象外、原料原産地表示も食品によって異なりますし、日本の食品表示ルールは複雑すぎます。食品表示は消費者のためのあるものだと考えていますが、食品表示のどこまで消費者は実際、理解されているのでしょうか？もっと、簡素化してほしいです。
もっと食品の大切さを出してはいかがでしょうか。特に輸入に頼る日本にとって食糧事情は厳しいと思います。
中国産食品の安全性に対する消費者の不安は大きい。（信用度が低い）消費者教育の在り方を考えるべきではないでしょうか。
パネルディスカッションで食育（食卓の向こう側を知る）の話がありました。国産を応援すしつつ、どこの国のものであっても生産者や加工流通販売に多くの人がかかわっており、否定的な気持ちでなく感謝の気持ちを持てるような教育や安全性のリスコミが必要と感じました。
輸入食品のリスコミを、食品輸入事業者、小売事業者、行政、消費者団体が、順番に主催して、定期的に開催して、メディアが報道するということを継続していけば消費者のリテラシー向上につながると思う。
法令の違いや国内法令の変更も頻繁に行われ、この分野の時間を割くようにして行きます

⑧ 今回のオンライン・フォーラムについて、ご要望や改善すべき点がありましたら、ご意見をお書きください

質問者の音声ボリューム（音声が小さくて聞き取りにくい方がおられましおた）
ZOOMが何度か切れましたが、こちらの回線の問題かもしれません。中村先生のときに断続的に切れました。
質問者の音声が小さくて、聞き取りにくかったことだけが残念でした。
特にございません。平日だと参加できないので、ぜひ日曜日の開催を続けてください。
三者のお話しはそれぞれ必要で欠かせることはできなかったと思うのですが、全体が長くて少し疲れました。懇親会は参加したかったのですが、ギブアップしました。寄る年波のせいかもしれません。
私のほうの問題ですが、接続がしにくい状態でした。
事前に質問を書いておけばよかったかも知れませんが、内容を聞いてからでないと難しいかも。
質問をする側の声が聞き取りにくいことがあり、参加する側も音量設定など事前にテストできる場があった方が良いのかと思います（スピーカーを大きくすると、演者の声が入ったときに大きくなりすぎてしまう）。
当日ではなく、後から視聴した際、天明氏の話の後の、山崎様のお話が聞き取りにくかったです。天明氏の声が大きめであるのに対して、山崎様の声が小さめで、途切れ途切れのようでした。
引き続き、宜しくお願いいたします。
少し、時間が長いように感じました。2時間ぐらいが良いのではないでしょうか。
オンラインでの開催は時間と交通費の節約で大変ありがたい。コロナが落ち着いてもハイブリッドの開催をお願いしたいと思います。
速度を上げて聞いているせいもありますが、パネルディスカッションの部分でのパネリストの皆さんの発言がやや聞き取りにくい部分がありました。
3時間以内が良い

⑨ SFSS事務局へのご要望

今後もセミナーよろしくお願いします(年会費が安すぎると思える内容のセミナーばかりで毎回感謝しております)。
今後とも宜しくお願いします。
お疲れ様でした。次回以降で手伝うことがあればお申し付けください。
コロナが収束しましたら、ぜひリアルでも参加させていただきたいです。
Miruhanaさんの花の写真に癒されました。ありがとうございました。
お疲れさまでした。ありがとうございました。
お疲れ様でした。
いつも充実した内容のフォーラムを開催していただき、ありがとうございます。
匿名で、事前に質問しておく方が良かったですか？
回答が遅れましても仕分けありませんでした。次回も楽しみにしております。
次回も期待しています！
今回もありがとうございました！次回7月、楽しみにしています。
吉田翔氏への部分で書いたように、少なくとも私にとっては目新しい、心に残る映像を伴う企画で、非常に感謝しています。
いつもありがとうございます。 特に問題無く視聴できております。 参加者の反応が分かりにくく講師の皆さまはご苦労されていると感じます。
お世話様です。
今回も充実の内容でした。ありがとうございました。